

中野外務大臣政務官による「幸福（新経済パラダイムを定義する）に関するハイレベル  
会合」開会式ステートメント(仮訳)

2012年4月2日，於：ニューヨーク国連本部

ヘレン・クラーク国連開発計画総裁兼議長閣下  
チンチージャ・コスタリカ大統領閣下，  
ジグミ・ティンレイ・ブータン王国首相閣下，  
ご列席の皆様，

このたび，ニューヨークのこの美しい春の空の下，この会合で，日本政府を代表し発言できることを幸い且つ光栄に存じます。ティンレイ首相及びブータン王国政府が，この重要な会合を開催するイニシアティブを取られたことを称賛致します。本日は，首相及び議長の指導力の下，有意義な意見交換が行われると確信しております。

本日の会合の主要な議題に入る前に，日本政府及び日本国民を代表し，今一度，昨年の東日本大震災に際し国際社会から受けた強固な連帯と温かい支援に対し，私たちの深甚なる謝意の念を表明したいと思います。国際社会からの寛大な支援と励ましの言葉により，日本の復興は着実に進展しています。

議長閣下，

皆様ご存じのとおり，幸せの感じ方は個々人によって異なります。従って，政府の主な役割は，市民が自らの幸福を追求できるような環境を整えることでありましょう。最近まで，多くの政策立案者，特に日本の政策立案者は，一人当たりの国内総生産（GDP）を増やすことが国民に幸せをもたらす最善策だと信じていました。

しかしながら，昨年の11月，震災後初の国賓として，ブータン国王王妃両陛下をお迎えした際，多くの日本人は，国王陛下のメッセージと国民総幸福量（GNH）の哲学に深い感銘を受けました。私たちは，人々のつながり，日本語でいうところの「絆」の重要性を思い起こすとともに，私たちの人生で何が最も大切なのかを改めて考えさせられました。私自身も非常に感銘を受けた国王陛下の国会演説は，極めて感動的で，日本国民に対する深い愛情と連帯感にあふれておりました。また，私はこの場を借りて，福島県を訪問し，現地の生徒たちに国民総幸福量の意味を教えて下さったティンレイ首相に謝意を表したいと思います。

議長閣下

実際、近年の多くの研究は、日本を含む多くの先進国において、幸福が経済的富に比例しないことを示しています。「幸福のパラドックス」としばしば称されるこの調査結果は、政府の政策を通じて個人の幸福を高める方途についての国際的な議論を巻き起こしました。

日本政府は、人々の幸福を促進するためのより良い、より革新的なアプローチを見いだすための国内外の努力の先頭に立ってきました。昨年12月、政府の研究会が幸福度指標とその政策的意義に関する研究結果を公表しました。家族、地域共同体、自然間のつながりに焦点を当てた130以上の幸福度指標が提案されました。現在、国家戦略会議の下に設置された部会が、政府の政策立案のためのビジョンと具体的措置を提言するために、研究会の調査結果のフォローアップを行っています。

議長閣下、

「幸福」の課題は、2015年以降の開発アジェンダに関する議論において重要性を増しつつあるように見受けられます。日本政府は、国連持続可能な開発会議（リオ+20）の成果文書へのインプットにおいて、GDPとは異なる視点を提供するために、幸福を新しい基準として検討することを提案しました。また、日本は国際開発戦略の指導理念として「人間の安全保障」を積極的に推進しています。人間の安全保障は人々やコミュニティの保護と能力向上を通じ、個人レベルでの人々の幸福を促進します。

昨年12月、日本は、OECD、アジア開発銀行及び関係機関と「幸福度に関するアジア太平洋コンファレンス」を共催しました。32カ国からの180名の参加者は、本件に関する自国の経験と国の取組を共有しました。同会議では、幸福の課題に取り組む際の異なる文化的価値観の重要性が幅広く認識されました。

議長閣下、

持続可能な開発を達成するためには、経済成長を人々の幸福と幸せな形で結びつけなくてはなりません。国連持続可能な開発会議（リオ+20）では、世界の指導者たちが持続可能な開発に向けた進捗を測る指標を策定することに合意することが期待されています。私たちは、幸福がそのような取組で重要な役割を果たしうると確信しています。成功すれば、国民総幸福量の知恵は、これまで主にGDPによって定義されてきた経済活動及び政府の政策を導く最良のパートナーになることでしょう。私たちは、このハイ

レベル会合での有意義な議論に基づき、より幸福な、よりグリーンな世界を実現するために、ブータン政府、他の加盟国及び関係者とともに取り組んでいくことを楽しみにしています。

最後になりますが、この会合にご出席の皆さまのご多幸を心より祈念致します。

ご清聴ありがとうございました。